

# SHOW HEY シネマルーム

★★★★★



## Data

監督：郭小櫓 (グオ・シャオルー)  
出演：黄璐 (ルー・ホアン) / 韋奕  
波 (ポー・ウェイイー) / ジ  
ェフリー・ハッチングス / ク  
リス・ライマン

## 👁️👁️ みどころ

日本人の内向き志向が顕著となり、国外に雄飛する若者が減少している今、こんな中国娘の生きざまから刺激を受けなくちゃ！田舎村から重慶へ、そしてロンドンへ1人で飛んだ中国娘の波乱に飛んだロードムービーと男遍歴に注目！

陳凱歌 (チェン・カイコー) 監督の『黄色い大地』(85年) でさえ、ロカルノ国際映画祭の銀豹賞だから、同祭金豹賞の本作はAVまがいのサービスも含めて必見？

— \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \*

## ■ ■ 『三大映画祭週間2011』での上映に謝謝！ ■ ■

テアトル梅田が「三大映画祭週間2011」と題して、9月10日から9月30日までの20日間、カンヌ国際映画祭、ベルリン国際映画祭、ベネチア国際映画祭という三大国際映画祭の各賞受賞作9本を連続上映することになった。本作は9月13日に観た中国映画『我らが愛にゆれる時』(08年) に続く2本目の中国映画。そう思ったが、邦題が『中国娘』、原題が『中国姑娘』、英題が『SHE, A CHINESE』で、グオ・シャオルー監督が中国人、そしてタイトルそのものの主人公ルー・メイを演じるルー・ホアンも中国人であるにもかかわらず、本作はイギリス・フランス・ドイツ映画だ。それは一体なぜ？

それはともかく、通常の上映ではなかなか観られないこんな面白い映画を鑑賞できたことに謝謝！陳凱歌 (チェン・カイコー) 監督の名作『黄色い大地』(84年) でさえ、85年のロカルノ国際映画祭の銀豹賞だから、第62回ロカルノ国際映画祭で金豹賞を受賞した本作は、AVまがいのサービス(?)も含めて必見！

## ■中国娘のロードムービーは？男遍歴は？■

タイトルそのものの本作の主人公は、中国内陸部(?)の小さな村で生まれ育った17、8歳くらい(?)の女の子リー・メイ。彼女が村を飛び出した先は重慶だ。映画にはロードムービーというジャンルがあり、さしずめ若き日のチェ・ゲバラの姿をみずみずしく描いた映画『モーターサイクル・ダイアリーズ』(04年)、『シネマルーム7』218頁参照)などはその典型だろう。しかして、本作が描く若きヒロイン、リー・メイのロードムービーと、男遍歴の中での彼女の成長物語とは？

まず、ロードムービーの舞台が田舎村から重慶に飛ぶことは理解できるが、そこからいきなりイギリスのロンドンに飛ぶことにビックリ。さらに田舎村でのレイプに始まったリー・メイの男遍歴が、重慶では筋金入りのヤクザの男スパイキー(ポー・ウェイイー)にホレたり、スパイキーがヤクザの抗争で(?)死亡した後はロンドンで老紳士ジェフリー・ハント(ジェフリー・ハッチングス)と正式に結婚したり、と波瀾万丈。さらにそれにとどまらず、年の差、習慣の差、セックス満足度の差等々でジェフリーとケンカした後は、ロンドンでインド料理店を営むインド人男性リチャード(クリス・ライマン)の家に転がり込んで事実婚状態になるなど、その行動力はすごい。日本人なら田舎娘がいきなりロンドンに飛んで大丈夫なの？と心配するところだが、そんなことは自力で簡単に切り開いていくリー・メイのたくましさにビックリ。

海外への留学が極端に減少している昨今の日本の若者たちはこの映画を観て、大いなる刺激を受ける必要があるのでは・・・？

## ■この中国娘は美人？それとも？■

映画冒頭、バックパックを背負って一人歩くリー・メイの姿がアップで登場する。化粧っ気は全くないが意思力の強そうな目が印象的だし、歩き方も力強い。そんな風景が、世界を股にかけたロードムービー(?)である本作には再三登場するから、まずはリー・メイの歩きっぷりに注目！次に男の目からみて、こんな冒頭の彼女は美人？それとも？その答えが難しいところが本作の面白さだ。もちろん汚い格好をしている化粧っ気も全くないから、この状態ではお世辞にも美人とは言えないが、見方によっては？また、導入部で描かれる田舎村の生活ではリー・メイが笑うシーンはほとんどなく、常にふてくされていくから、とても美人に思えないのは仕方なし？

田舎村でのリー・メイの「初体験」がダンプ運転手のレイプだったのはかわいそうだが、バイクを乗り回す不良たちのリーダー格の男との純愛(?)は結構いい線を描いていた。したがって、この男がある日パイと深圳に行ってしまうのであれば、リー・メイのロードムービーはなかったかも……。田舎村を飛び出したリー・メイが女友達と2人で向かったのは中国で最も人口の多い重慶。大きな縫製工場で女工として働き始めたリー・メイは、

田舎村の時とは違い一生懸命やっている様子だったが、それでも製品の出来が悪いとしてクビにされたのは意外。こりゃひょっとして、あの田舎村では人間としての基礎訓練ができてなかったせい？いや、そんなことはないと思うのだが・・・？

## ■□■中国娘の「七変化」に唾然？■□■

日本人には到底望めない、中国娘リー・メイの「押しの強さ」は、縫製工場をクビになった後、1人歩いている途中で見つけた（怪しげな）理容店に飛び込み、「3日間でもいいから働かせてくれ！」と迫るシーンで顕著になる。最初は掃除、洗濯などをやっているだけだったが、少し慣れてくるとそこで働く女たちが少しヘンなことは理解できたはず。どうも、ここは売春を兼ねた理容店みたい？さらに、その隣に住んでいる筋骨たくましい坊主頭のスパイキーはケンカが商売の、何ともアクの強いヤクザのようだ。

そんな生活を続けているうち、商売も兼ねて（？）リー・メイが化粧したりカツラをかぶったりミニスカートの服を着たりすると、結構美人に見えてくるから女は不思議だ。リー・メイの最後の男となり子供まで宿すことになるのが、ロンドンでイント料理店を営んでいるインド人のリチャードだが、リチャードが買って来た（盗んで来た？）ミニのチャイナドレスを着ると、リー・メイもなかなかのもの。さらに、その直後に展開されるAVまがいのエッチシーンを見ていると、グオ・シャオルー監督のサービス精神に感謝するとともにその面での中国娘の成長（性長）ぶりにビックリさせられる。本作では、中国娘リー・メイが見せるそんなロードムービーと女としての七変化をタップリ楽しみたい。

## ■□■この結婚は？この家出は？この同棲は？この妊娠は？■□■

中学、高校時代の6年間、大学時代の2年間英語を勉強してもロクロクしゃべれない私のような日本人にとっては、リー・メイのような田舎娘がいきなりロンドンで生活を始める勇気にビックリ。リー・メイがロンドンに向かったのは、ヤクザの抗争で（？）死んでしまった男スパイキーの夢が、カレンダーに写っているような美しいヨーロッパのまちに行くことだったため。スパイキーは現金だけはタップリベッドの下に隠したまま死んだから、その上で寝ていたリー・メイはちゃっかりそれを独り占めしたわけだが、愛する男の夢を自分が代わりに実現するというこの女心をさてどう評価？もっとも、ここでも格安の（？）ツアーでロンドン旅行に参加しておきながら、カレンダーの写真にあった目的地にたどり着くと、勝手にツアーを離脱してしまうというリー・メイの身勝手ぶりは相変わらずだ。

異国の地で1人で宿泊先を見つけ仕事を見つけるのは大変だが、リー・メイのような中国娘はそんな苦労は屁とも思わない様子。そんなリー・メイが、なぜ妻を亡くしたイギリス人の老紳士ジェフリー・ハントと正式に結婚することに？そして、数カ月間の幸せそうな新婚生活の後に、なぜ「出て行け！」と言われることに？そこにはセックス面における

リー・メイの不満が大きかったことが明らかだが、そんな状況下リー・メイがインド料理を宅配してきたリチャードに惹かれた理由は？

本作では、リー・メイが戸籍を持っているのかどうか？またロンドンでの滞在ビザはどのようなものかについて全く説明されないから、リー・メイとジェフリー・ハントが正式に（法的に）婚姻できているのかどうかもわからない。さらに、リー・メイがジェフリーと正式に離婚届を出したのかどうかもわからない。したがって、リチャードとの「事実婚」の中で、AVまがいのセックスシーンが数回登場した挙げ句リー・メイの妊娠が明らかになると、お腹の中の子の父親は法的には一体誰？弁護士の私の目にはそんなこんな疑問が湧いてくるが、まあこんな中国娘にとっては、そりゃいらざるおせっかい？

### ■□■このメッセージには少し違和感が・・・■□■

どんな田舎娘でも、いい男に恵まれ経済的に恵まれながら大人になれば美しくなっていくものだが、本作中盤から終盤にかけては、キレイに化粧した時のリー・メイの顔の美しさや長くスラリと伸びた足の美しさやスタイルの良さが少しずつ目立ってくる。リチャードとの同棲生活は少なくともセックス面では十分満足できていたようだが、リチャードが突然ロンドンは合わないからインドに帰ると言い出したから大変。一瞬私は、なるほどそういう展開か、するとリー・メイのロードムービーの次なる舞台はインドかと考えたが、それは大いなる錯覚だった。ジェフリー・ハントと言い争いになった1つの原因が中国とイギリスとの食生活の違いだったが、リチャードとの生活が根本的にムリなことは、「豚肉論争」で明らかになる。インド人のリチャードはモスクに通い、コーランを読んでいるイスラム教徒だから、豚肉を不潔だとして絶対食べないのは当然。それに対してリー・メイは、「洗えばキレイだ」とか「川の中の魚だって自分が出したフンが流れている川の水を飲んでる」など反論するが、それって全く無意味では？

そんな状況下でリチャードの子供を妊娠していることが明らかになったのだから、日本人の女の子なら当然落ち込むところだろうが、ここでもリー・メイは強い。身の回りの荷物をバックバックに詰め込んだリー・メイはそれを背負い、既に目立ち始めたお腹を突き出しながら再び一人旅へ。そこで流れてくるテロップが「世界は水でつながっている」というものだ。なるほどたしかにそうだが、この中国娘のたくましい生きざまを表現するについて、このテロップには少し違和感が・・・。

2011（平成23）年9月16日記